NIKKEI Network
ニッケイ・ネットワーク
海外日系人協会だより
2009
NO.2
SEP.

アマゾン日本人移民80周年

9月16日から、トメアスー、ベレン、マナウスで記念式典

ベレン、トメアスーの日系人のみなさん
写真提供:ニッケイ新聞(サンパウロ)

昨年は、ブラジルへ日本人が移住して100周年にあたり、日伯両国で様々な記念行事が執り行われたことは記憶に新しいが、本年は、ブラジル、アマゾン地域へ日本人が移住して80周年にあたる。

最初に日本人が移住したサンパウロ州は、コーヒー農園での契約労働が主であったが、熱帯に属するパラー州、アマゾナス州をはじめとするアマゾン地域は、ジャングルに覆われた未開発の土地が広がり、幾多のヨーロッパ人による開発の手をはねつけていた。当時のパラー州知事は、その約20年前に移住が始まった日本人の勤勉さを評価し、土地の無償提供を申し出、日本人新規移住者によるアマゾン開拓を打診した。人口増加や食糧問題を抱えていた日本政府がこれに応え、鐘紡を中心に南米拓殖株式会社が設立された。同社が開発したアカラ植民地(現トメアスー)に1929年、第1回移民が入植したのを、現地ではアマゾン移住の起源としている。会社主導による植民地経営は失敗するが、入植者達が自給自足のため作った野菜は、大都市ベレンに広がり、野菜を食べる習慣のなかったブラジル人の食文化向上に寄与した。また、移民監督官であった臼井牧之助がシンガポールから持ちこんだ南洋種の胡椒苗から増殖された胡椒(ピメンタ)が、戦後市場価格の急騰により黒いダイヤと呼ばれるほどの富を移住地にもたらしたこともあった。

もうひとつ、忘れてならないのが日本高等拓殖学校卒業生(高拓生)によるジュート(黄麻)栽培である。衆議院議員だった上塚司(移民の父と呼ばれた上塚周平の実弟)により、同じく国策会社として設立されたアマゾニア産業株式会社は、アマゾナス州に現地法人を置き、当初からジュート栽培を目標に高拓生や家族移住者を送り研究を重ねた。インドから持ちこんだ種子の中から2本だけ現れた有力品種から苗を育て、それまでコーヒーを入れる袋など国内で需要がありながら、輸入に頼っていたジュートの国産化に成功した。

これら日本人移住者による成功は高く評価され、ブラジルにおいて日本人移住者・日系人の評価を高める一因となった。誰もがなし得なかった熱帯農業によるアマゾン開拓成功の自負と誇り、マラリアなど過酷な自然との戦いによる犠牲者への追悼が、ブラジルでもう一つの移住者・日系人による周年行事がアマゾン移民とその子孫により行われる理由である。

現地では9月16日に、日本人が最初に入植したパラー州トメアスーで、18日に州都ベレンで、20日にアマゾナス州の州都マナウスで記念式典が開催された。日本からも慶祝団が現地を訪れ、日伯国会議員連盟からは井上信治衆議院議員(自民党)が18日ベレンの式典から参加した。アマゾン日本人移民80周年祭典委員会生田勇治会長は「今回の80周年がおそらく1世が参画できる最後の式典。日本人移民が繰り広げてきた80年の壮絶な開拓物語は1世移民の消滅とともに風化してゆく運命かもしれないが、築き上げてきた有形無形の財産は子々孫々へと受け継がれて行く」と語った。

JICA横浜海外移住資料館ではアマゾン日本人移民80周年記念特別展示「アマゾンへ渡った日本人の軌跡」を10月4日まで開催している。

みなとみらい日本語教室　第2期が開校

文化庁委託による「日系人教師養成講座」も

9月5日、当協会が実施する「みなとみらい日本語教室」第2期が開校した。在日外国人のための成人向け日本語教室で、第1期は5月から7月まで実施している。

能力別にA～Cクラスに別れ、各クラス約10人、17才から57才までの計30人が11月まで週1回授業を受ける。国籍はメキシコ、ブラジル、ペルー、ボリビア、アルゼンチン。

日本語能力試験3級を目指して「能力試験対策講座」も受講しているアルゼンチンのアシミネ・スサナさんは在日6年。横浜で自動車のシートを作る工場で働いていたが現在は失業中だ。「仕事のこともあるけど、両親の故郷沖縄のことをもっと知りたい。そのために日本語がもっとできるようになりたい」と夢を語ってくれた。

文化庁の「『生活者としての外国人』のための日本語教育事業」による委託事業として日系人の日本語教師を養成する「日本語指導者養成研修」も8月に集中講座を実施した。同講座は12月にも実施する。

アシミネさん（中央）と「能力試験対策」クラスのみなさん

日系人緊急特別訓練がスタート！

当協会が日本語フォローアップ研修実施

アーク溶接の特別訓練を受ける受講生（神奈川県立秦野高等職業技術校）

厚労省が実施する日系人就労準備研修は日系人集住地域を中心に各地で実施されている。神奈川県内は、当協会が(財)日本国際協力センター（JICE）の委託を受けて実施しているが、卒業生の中から希望者を募り、さらに就職に必要な技術を身につける日系人緊急特別訓練が、神奈川県立秦野高等職業技術校で開始された。

訓練に先立ち、当協会では7月11日から8月18日までの6週間で12回JICA横浜において訓練受講希望者12名に日本語のフォローアップ研修を実施した。今回の特別訓練の科目は「溶接・板金」で、専門用語の知識が必要となるほか、高温となるガスバーナー等を使用することから、正確に日本語を理解できないと大きな事故につながりかねない。

フォローアップ研修を修了し訓練を受講することになった5人は、「フォローアップ研修の授業で聞いたことが、技術校で実物を見てすぐに役だった」と感想を述べていた。同技術校の飯島東教諭も「座学での筆記試験も5人とも高得点で修了し実技も日本人と変わらない向上を見せている。偏にフォロー教育の成果だと思う」と語った。

当協会では、9月より「機械加工コース」の特別訓練受講希望者13人を対象にフォローアップ研修を実施する。

在日ニッケイ人は今・・・

学校に行けない子供たち

フォトジャーナリスト　其田 益成

景気後退した日本に在留する日系人。子どもの教育問題も深刻である。

帰国後のことを考えて、母語による教育を望んでいる親は、ブラジル人学校やペルー人学校に子どもを通わせているが、8月1日付「International Press」紙は、昨年来の経済不況の影響により、日本にあるブラジル人学校の生徒数が約60%減少したと報じている。内訳はブラジルに帰国した生徒が51%、日本の学校に転校した生徒が12%、就学をストップした生徒22%および不明が15%となっており、在留を続けている生徒37%が、親の失業などを理由に学校に行っていないことになる。

私の聞き取りでは、学校に行かないで「家にいて下の子の面倒を見ている」者や、「親の手伝いをしている」者が多い。実際に目にしたわけではないのだが、伊勢崎市で親が商売で作ったお弁当を道ばたで売っている子どもがいると証言をする者もあった。本当だとすると日本では考えられない光景である。

◆群馬県太田市で出会ったペルー人家族。
両親は失業中だが、ペルー人の場合、ペルー人学校は少なく、また「ペルーより設備がいい」という日本の公立学校に通わせている例が多い。子どもの笑顔だけが救いである。（2月）

少なからず「何もしていない」で遊び回っている者もいる事が分かっている。この「何もしていない」でいる子どもや、もう少し年齢が上の「何もしてない」グループでは非行も問題になっている。前回失業者の取材中に「勉強が嫌いだったから働いた」という二十代前半の若者がいた。彼は2度結婚を経験し子どももいるが離婚していた。失業中の彼が養育費を払えるわけもなく、また払うつもりもないようだった。

◆群馬県大泉街で2月の終わりに出会ったこども。
ブラジル人学校に行っていたが両親の失業により、学校へは行かず自宅前で一人で過ごしていた。4月からは新1年生だが、できれば両親は日本の学校へは入れたくないと言っていた。イジメの問題や言葉の問題があるからだと言う。3月末に訪ねたところ、既に引っ越していてどこへ行ったのか分からなかった。

◆神奈川県厚木市のブラジル人学校。
この中の何人かは、日本の小学校でイジメにあった経験を持っていた。聴覚障害をもつ児童もいた。日本の養護学校に通った経験もあるが、保護者の考えから現在は養護学校に通わず、ブラジル人学校に通っている。（7月）

■其田益成（そのだ　えきせい）
フォト・ジャーナリスト。日本写真家協会会員。1999年より、慶応大学三浦左千夫教授の国内外の日系人医療キャラバンなどに同行。日系人コミュニティの取材を続けている。

ブラジル宮崎県人会創立60周年

式典に東国原知事

ブラジル宮崎県人会（黒木慧会長）は、8月23日、サンパウロ市の北海道協会会館で県人移住95周年・県人会創立60周年の記念式典を開催した。式典にはブラジル国内各地の県人会員や母県から東国原英夫知事、中村幸一県議会議長、津村重光宮崎市長夫妻ら訪問団31人を迎え、約500人が参加したほか、大部一秋在サンパウロ総領事夫妻、ウイリアム・ウー連邦下議、与儀昭雄ブラジル日本都道府県人会連合会長ら多くの来賓が出席した。黒木会長は「宮崎にルーツを持つ者の子孫が、この　ブラジルの大地に宮崎の血を忘れずに日伯交流に努め、ブラジルの発展に寄与することが、母県の恩義に報いることになる」と述べ、今回の知事の訪伯は私たち　県人に「どげんかせんといかん」と「活」を入れて下さるものと期待したい、とあいさつした。東国原知事は「三世・四世ともなると日本や宮崎とのつながりが　希薄化していくと聞くが、県としても県費留学生や農業研修の制度を通して、県と県人会との絆を深めて行きたい」と祝辞を述べ、80歳以上の高齢者表彰で は、ステージから降りて、受賞者一人ひとりに賞状と記念品を手渡した。式典後の祝賀会で東国原知事は会場内を回りながら懇談、気軽にサインや記念撮影に応じていた。アトラクション最後のサンバショーで、知事はダンサーに手を取られながら会場内を練り歩き、最後はステージ上でパンデイロを片手に大勢の県人会員と踊るなど、ブラジル滞在2泊3日という強行軍にもかかわらず、かつてのエンターテイナーとしてのサービス精神を発揮するうちに、今年還暦を迎えた宮崎県人会の記念式典はフィナーレとなった。

（レポート:徳永哲也　宮崎ブラジル親善協会理事）

ブラジル便り

2

国外就労者情報援護センター
（CIATE）理事長
二宮　正人

ブラジリアで「デカセギ・セミナー」

伯日連邦議員連盟が主催

九州北部豪雨,台風9号の被災者の方々に対し、地球上の対蹠地より心からお見舞い申し上げます。

当地サンパウロは現在、真冬とは言っても気温は摂氏10度から20度ぐらいの間を上下しており、昼間は汗ばむほどであっても、朝夕はかなり涼しく、例年であれば乾期の時期でありますが、7月は観測史上最大の雨量を更新するほどの降水量で、青空がなかなか窺えませんでした。

また、サンパウロ州教育局より新型インフルエンザ拡大予防の為、8月3日に予定されていた公立校の新学期開始は、大学も含めて8月17日からようやく始まりました。なお、6月はブラジル日本移民101周年記念する月間で、昨年の様な華やかはありませんでしたが、数々の記念行事が催されました。18日に行われた先駆者慰霊ミサ（長崎の26聖人の一人を顕彰したサン・ゴンサーロ教会）、佛式の開拓者先亡者追悼大法要（文協記念大講堂）等、先人たちの功績に対する畏敬の念を懐かせる催しに対し、昨年と変わらない参加者数だったとの事で、この様な毎年の行事の繰り返しが、節目の年の大輪の花となって成功裏に終わることが出来るのだと、痛感させられました。

6月中旬には、首都ブラジリアに於いて新幹線セミナーが開催された同じ日、伯日連邦議員連盟（飯星ワルテル会長）が主催した「デカセギ・セミナー」が行われました。

ウィリアム・ウー同議員連盟副会長より開会宣言がなされ、その中で日本政府が実施している在日日系人支援策は、欧米・近隣諸国を含めて約300万人の在外ブラジル人が存在するのに対し、世界で唯一日本が援助の手を差し伸べたことに対して、ブラジル政府が高い評価を下し、また感謝している点が指摘され、ブラジル側でも連邦議会においてデカセギ支援策の議論を行う必要があり、日伯の関係者が共に手を携え、危機を好機に転換していく旨の話がなされました。続いて、7人の専門家が現状と課題を発表し、小職は日本におけるブラジル人就労者がおかれている現状と今回の日本政府の支援策等について、説明しました。

そして、パウロ・セルジオ・アルメイダ国家移民審議会会長より、ブラジル政府としての在日ブラジル人問題点と対策についての方針の説明が有りました。

①間接雇用が多い為、経済状況の悪化等のネガティブな要素が重なる時、また日本語が理解できない場合、どのような対応をすべきか。そして再就職の困難性について。

②年金、保険等の社会保障制度の未加入者が多いこと。

③在日子弟の教育問題（不登校・不就学の問題等）等、要約しますと、以上が問題点としてあげられました。

これらの問題点へのブラジル政府の対策としては、以下のものが検討されています。

①日本に「カーザ・ド・トラバリャドール・ブラジレイロ（ブラジル人労働者の家）」を設置し、労働　法律問題等の相談窓口、再就職支援、情報支援等を行う。

②帰伯者向けの再就職プログラムの策定。（帰伯者に対して職業訓練を施し、再雇用を容易にするための支援センターの設置。

③連邦貯蓄銀行と提携し、ブラジルで働いていたときのFGTS（勤務年限保証基金）の緊急引き出しを日本で実行できる制度の確立等。

なお、ブラジル政府の認識としては、ブラジル日系人社会と在日ブラジル人社会は日伯両国に於ける架け橋でもあり、両国をより密接な関係にさせうる重要な存在である。6月下旬には、パウロ・セルジオ国家移民審議会会長自ら当CIATEを訪問し、在サンパウロの6社7名の派遣業者にご参集願い、会合を持ちました。（主として、現状聞き取り調査）。

次に、ミサト・トシオ　オウリーィニョス市（サンパウロ州）よりはデカセギ帰伯者支援策として創設されたデカセギ・センターの現状等の説明が有り、日本はブラジル人支援をしている世界で唯一の国で、帰伯者に対しては政府として手を尽くす必要があるとの認識を示しました。具体的にはポルトガル語が話せない、または書けない帰国子女の為に日本語が出来る補助教員の配置や、SEBRAE（ブラジル零細小企業支援サービス）による帰国者の為の起業家プロジェクトの開催等実施内容を説明しました。

そのほか、サンパウロ州雇用労働関係局マルコス・ウオルフ氏が州政府が実施している就職支援サイト、グルッポ・ニッケイの島袋・レダ氏開催の「ただいまプロジェクト」（帰伯デカセギ者対象）、ISECの吉岡黎明会長より「カエル・プロジェクト」（帰国子女対象）等　各代表から現状と課題等の説明がありました。

現在までに、ブラジル労働雇用省サンパウロ支部で4回の会合が持たれ、CIATEも日系各団体とともに参加を求められ、積極的に意見を述べてきました。例えば、帰国者の到着に際してグァルーリョス国際空港でのパンフレットの配布や、5～6人態勢での相談窓口の設置等が検討されており、近日中にはご報告できると思います。

最後になりますが、2009年4月～7月の来所者の統計を報告いたします。

来所者　（　）内は2008年度

項　目	人　数	昨年対比（%）
求人（求職相談）	13（16）	81
事前研修（日本語講座含む）	1467（352）	417
帰国後相談 相談件数	652（428） 859件（683件）	153 126

求職に関する相談者は13名来所しましたが、残念ながら求人件数は0です。

訪日前事前研修には、毎週火・金曜日開催の研修会、2カ月に1度行う合同研修会、各地に赴いて行う巡回CIATE、日本語講座などが挙げられます。

帰国後相談とは、脱退一時金相談を筆頭に、年金問題などが数多く寄せられますが、一方相談内容は多岐に亘り、各機関にもご協力を求めて相談に対応しております。

相談センターだより
最近の相談事例から

犯罪に関する相談

相談センター所長　西山　巌

(財)海外日系人協会 日系人相談センター
■相談受付　月曜日～金曜日(土・日曜、祝祭日を除く)
9:30～12:30　13:30～17:30
■対応言語　ポルトガル語、スペイン語、日本語
■電話番号　045-663-3258

2009年4月から8月(5ヶ月間)における当相談センターが受け付けた相談件数等は次の通り。

相談者の人数は1,899人、相談件数では3,075件(前年度比22%増)であった。相談者1,899人の男女別内訳は、男性1,009人、女性890人で国別相談者数は、ブラジル42%、ペルー33%、日本19%、その他14カ国となっている。内容別にみると、生活相談が一番多く、その他日本語学習、保険・年金・税金、労働問題、研修・奨学金、翻訳・通訳、求職問題と続いている。

県警からの相談(帰国支援金)

相談 請負会社に雇用され来日した日系ブラジル人が、遠隔地である現場に派遣されて働いていたが不況のため会社が倒産し、現地で放り出されてしまった。言葉ができず知り合いもいない同人は住む場所を失ったあげく、寒さと飢えをしのぐために人家へ上がりこみ警察に逮捕された。　現在被疑者として勾留中だが、起訴されることなく来月中旬には釈放される見込み。　同人はブラジルへの帰国を希望しているので、4月から始まった日系人離職者に対する「帰国支援金」に該当するかどうかハローワークに相談したところ、求職活動を断念することが支給要件になっているので、まず居住地を管轄するハローワークで求職の手続きを行ったうえで、その後帰国支援金の申請を行う必要があり、支給されるまでに1ヵ月以上かかる旨説明を受けた。

ついてはこの期間中、彼を引き受けてくれる支援団体を紹介していただけないか。当地にも釈放された人たちを支援する団体はあるが、外国人を引き受けられる体制にない。

対応 日系ブラジル人の集住地域である群馬、静岡、愛知など各所へ問い合わせの電話をかけたところ、同胞人の間で「助け合い精神」が盛り上がっていることを感じた。人から人へのネットワークをフル利用し、この緊急時に各地で日系人が運営する支援団体が生まれていることを知る。このうち数カ所の支援施設からこころよく引き受けの連絡をいただき結果を県警に連絡した。対応の素早さに県警も驚いていた。これまでは、日本に住む日系人の繋がりの薄さが喧伝されていたが、いざとなればハートフルな人たちばかりである。この相談を通して、日系人の間に不況をきっかけに相互扶助の精神が高まればよいと感じると共に、日本人支援団体数ヵ所の対応に冷たさを感じた。

万引き

相談 親戚の親子の問題で相談したい。親戚の母子がショッピングセンターへ買い物にでかけ、センター内ではぐれてしまった。母親は日本語を話せない11歳の娘を案じて必死に探しし、館内放送までしてもらった。その間に娘は万引きをして店員に捕まり、事務所内に連れて行かれていた。母親がやっと娘に会えた時には警察官が呼ばれていて、結局二人は警察署まで連れていかれた。親子は警察で別々に取り調べを受け、その後すぐに解放されたが、その際後日連絡が届くとの説明を受けた。

後日自分はこの親子に付き添って万引きした店に謝罪と返済に行った。その後警察から何の連絡もない由。一方、親子のビザの更新期日が近づいており、娘の更新ができないのではないかと心配している。母親は、娘を犯罪者にしてしまったと自分を責め、毎日泣き暮らしている。今後どのような方法をとればよいのだろうか、

対応 小学生の女子が万引きし警察に連行されることは滅多にありません。通常、親が呼ばれ注意、謝罪で済むものです。今回の場合、よほど娘さんの態度が悪かったとかで店側は厳しく対処したものと思われます。

これまでに警察から全く連絡がなく不安ということですが、事件後即店側に親子で謝罪に行ったことでもあり、店側から「取り下げ」処置をとった可能性があります。警察署にいって経過を尋ねてみてはどうでしょうか、なお禁固刑以上の刑は別として、この程度でビザの更新に影響が出るとは考えられません。

賛助会員のご案内

当協会では、当協会の事業目的および活動趣旨についてご賛同いただける賛助会員を募集いたしております。会費・特典等は下記をご参照下さい。

なお、「ニッケイネットワーク/海外日系人協会だより」につきましては、今年度1年間は当協会賛助会員及び、従前どおり海外移住家族会会員の皆様等にもお送りいたしますが、来年度よりは賛助会員のみへの発送となります。この機会に、ぜひとも当協会賛助会員への加入をご検討下さいますようお願い申し上げます。

海外日系人協会賛助会員

◆年会費

・国内　企業団体：1口以上　1口　30,000円／年
　　公益団体：1口以上　1口　10,000円／年
　　個　　人：1口以上　1口　10,000円／年

・海外　団　　体：1口以上　1口　100ドル／年
　　個　　人：1口以上　1口　100ドル／年

◆特　典

① 海外日系人大会式典およびレセプションのご招待
② 季刊誌「海外日系人」の送付(年2回発行)
③ 「NIKKEI NETWORK/海外日系人協会だより」の送付(年4回)
④ 当協会企画の南米視察・訪問団等のご案内
⑤ 当協会が発行する刊行物の割引

◆送金先

・国内　①郵便振替　口座番号：00100―5―703428
　　加入者名：財団法人　海外日系人協会
　　②銀行振込(銀行名)　(支店名)　(普通預金口座番号)
　　三菱東京UFJ銀行　横浜　4472220
　　三井住友銀行　みなとみらい　0110749
　　みずほ銀行　横浜　2530298
　　(口座名義)ザイ)カイガイニッケイジンキョウカイ

・海外　国際郵便為替　又は　銀行小切手
(宛先名) THE ASSOCIATION OF NIKKEI & JAPANESE ABROAD

日系社会 Topics

故郷で居場所を探す帰国子弟 ペ・バレットに戻った及川兄弟

デカセギの子弟として帰国し、生まれ故郷の聖州ペレイラ・バレットでの活動を模索している日系の兄弟がいる。日系人の母親とブラジル人の父親を持つラファエル及川（16）及びフェリッペ及川（17）さんの二人で、日本で幼少年期を過ごしたため、よどみのない日本語を話す。兄弟ともペレイラ・バレットで生まれたが、両親が出稼ぎで日本へ行くため、二歳と三歳でブラジルを離れた及川兄弟。長野県伊那市で学園生活を送っていたが、ペレイラに在住していた祖父が体調を崩したため、兄のフェリッペさんは地元高校の1年生、弟のラファエルさんは中学を卒業する数ヶ月前に親と共に思いがけず帰ることとなった。長野県では、兄弟揃って学校のサッカー部に所属。フェリッペさんは、将来的にプロ・サッカー選手になることを夢見ていたという。

言葉が不慣れな父親のために、「通訳」として家族を助けた及川兄弟は突然の帰国に「日本の友人たちとの別れが辛かった」と本音を漏らす。日本で教育を受けた二人は当初、言葉をはじめブラジルでの生活に戸惑ったが、現地文化体育協会関係者や史料館館長の増田セルジオさんたちが積極的に、二人を協会への活動へと誘った。現在は地元の和太鼓グループのメンバーにもなり、7月末に行われた盆踊り大会にも参加した。「最初は言葉（ポ語）もわからないし、ゼロからのスタートでした。日本の方が良いと思う時もあるけれど、人生はこういうことも多いし、それを乗り越えていかないと」とラファエルさん。盆踊り大会では「恥ずかしくて」踊ることができなかったが、少しずつ地元の仲間も増え、一緒に踊って楽しむようになったという。

「将来的には何をするかはまだ決めていませんが、心は日本人です。日本で働いてくれた両親のためにも、今度は自分たちが恩返しをする番。地元文化協会の力にもなることができればと思っています」と二人は、複雑な気持ちにゆれながらも、前向きな姿勢を見せていた。

8月17日付「サンパウロ新聞」

学研のスポーツノンフィクション 闘莉王　超攻撃的ディフェンダー

今やサッカー日本代表で欠かせない存在となった、田中マルクス闘莉王（浦和レッズ）のこれまでをつづった初の児童向けノンフィクション読み物。

日系三世のブラジル人として生まれた彼のさまざまな困難にぶつかりながらも、それを乗り越えて成長してきた姿が子供の頃や家族の写真もあわせて、紹介されている。

漢字には読み仮名がふられ、語句の解説もつく。日本に暮らす日系人の子ども達の教材に、また日本人小学生の多文化教育にも活用できそうだ。

文：矢内由美子
体裁：A5判ハードカバー　本文176ページ
定価：1260円（本体1200円）
発行・発売：学習研究社
発売日：2009年4月8日（水）

《賛助会員便り》

アメリカ 荒田繁子さん

まだ、留学の困難だった昔、幸運にもそのチャンスを得、留学中に紹介された男性と帰国後に結婚し、それ以来ロスアンゼルスに居住している高齢者です。その間日系人協会にはいろいろな面でお世話になっております。この協会の縁の下の力持ちさん方には頭が下がります。まさにアメリカの奉仕精神を地でいっていると感謝しております。

さて、このロスはあの頃でも英語なしで暮せた程の所ですが、今では日系人、日本企業も多く、場所によっては日本と見違うほどです。違いは、まだ日本の古きよき所が日本よりも残っているという事でしょうか。

夏の話題として今年もまた二世週日本祭りがあり、小東京（リトル・トウキョウ）を中心に大変な賑わいを見せました。特に今回は、名古屋市との姉妹提携五十周年記念の年でもあり、その行事と共にパレードをはじめ催しが多々開かれました。この行事も近年では現地のアメリカ人にも大変な人気があり日系人だけのお祭りの域を超えつつあります。

人種間の結婚も多くなり、垣根も取り払われつつあるのかもしれません。

（協同システム日本語学園元主任教師）

編集部よりひと言

「海外日系人大会」代表者会議で、ユースの発表に拍手を贈っていらした荒田さん。ご自身の留学生経験を思い起こされていらしたのかも知れませんね。

NIKKEI Network NO.2 海外日系人協会だより 2009 SEP.
発行／（財）海外日系人協会　〒231-0001　神奈川県横浜市中区新港2-3-1赤レンガ国際館2F
TEL：045-211-1783　FAX：045-211-1781
E-mail：info@jadesas.or.jp　URL：www.jadesas.or.jp　編集発行人／沢地　真

VIVA VIDA! Medical Life
HEALTH AND LIFE INSURANCE
FOR FOREIGNERS LIVING IN JAPAN
～日本で安心して生活するためのセーフティネットとして～
日本初！外国人のための医療保険（100%保障）・生命保険
VIVAMED（医療＋生命保障）
¥9500×6回払（一括払1年¥53,500）
VIVALIFE（生命保障）
¥3,800×6回払（一括払1年¥18,900）
㈱ビバビーダメディカルライフ ＜関東財務局長（少額短期保険）第51号＞
www.vivavida.net　vivavida　検索　0120-656-684／☎046-265-6685